

技術・家庭科〈家族・家庭と子どもの成長〉学習指導案

平成 21 年 11 月 6 日(金)

指導者 : 仙台市立八木山中学校

教諭 今野 英明

指導学級 : 3 年 1 組 35 名

指導教室 : 仙台市立富沢中学校

1 題材名 「幼児の生活と家族」

〈新学習指導要領 A 家族・家庭と子どもの成長, (3)ア, イ, ウ, エ〉

2 題材の指導目標

幼児の発達と生活の特徴を知り、幼児を取り巻く家族の役割や幼児の遊びの意義についての理解を深めるとともに、幼児の遊び道具の製作や保育所訪問学習などの実践的・体験的な学習を通して、幼児とのかかわりについて関心を持ち、幼児と進んでかかわり、幼児とよりよい関係を築いていこうとする能力と態度を育てる。

3 題材について

(1) 題材観

近年、少子高齢化や家族の形態の多様化なども相まって、中学生の多くは、家庭内や近隣地域において幼児と触れ合う経験が得にくい状況にある。また、受験や多忙な日々の生活の影響もあり、幼児と接する機会にも恵まれているとは言い難い。加えて、中学生という「育てられている立場」にある中で、幼児を取り巻く大人としての責任ある立場を自覚し、積極的に幼児とかかわろうとする姿勢を身に付けていることは希であると思われる。

将来的に、幼児を取り巻く大人として、幼児を見守りながら、適切にかかわることが求められる立場になっていくことを踏まえると、現代の中学生のこのような状況は、幼児の発達や生活、幼児とのかかわりなどについての知識や技術を、生活の中で体験的に学ぶことのできる機会を乏しいものにしていないのだろうか。

このような背景を考えると、幼児や幼児と家族とのかかわりについての知識を深め、幼児を自分自身の身近なものとしてとらえるために、幼児について実践的・体験的に学習していくことのできる機会を設けることが大変重要であると考えられる。

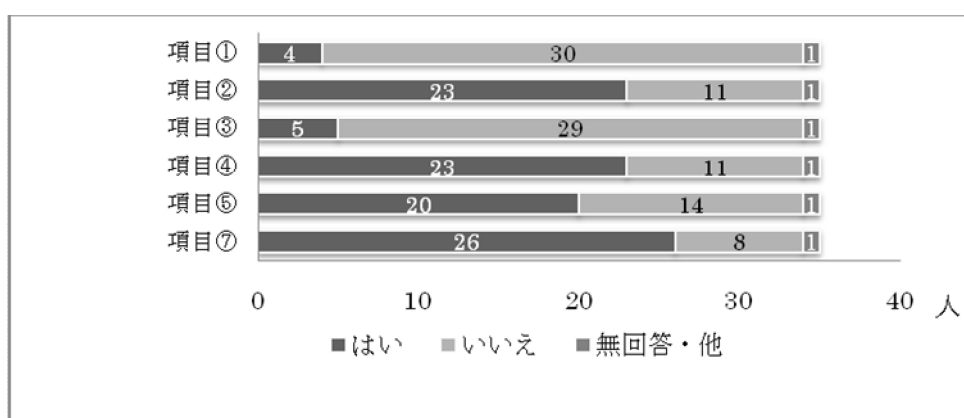
以上のようなことから、実践的・体験的な学習を通して幼児や幼児と家族とのかかわりなどについての関心を高め、自分自身に身近な課題として感じられるような学習を展開することによって、幼児について意欲的に学ぼうとする姿勢や、幼児を取り巻く大人としての立場を実感しながら、幼児とのかかわり方を工夫し、積極的に実践していくことのできる能力と態度を育成できると考え、本題材を設定した。

(2) 生徒観

本学級の生徒に以下の質問項目のアンケートを実施し、実態把握を行った。

- ①家族の中に、小学生未満の子ども（以下子ども）がいるか。
- ②近所に子どもはいるか。
- ③生活の中で、子どもと触れ合う機会はあるか。
- ④子どもは好きか。
- ⑤将来的に子どもがほしいか。
- ⑥子どもに対して、どのようなイメージを持っているか。
- ⑦保育所訪問は楽しみか。

*アンケート集計結果



項目⑥の主な回答：「かわいい」「明るい」「元気」「泣く」「うるさい」など

本学級の生徒の家庭の大多数は核家族であり、アンケート結果を踏まえると、家族の中に幼児が存在するケースはほとんど見受けられない。また、近隣に幼児がいる場合であっても、生活の中で幼児と触れ合うことのできる機会を持っている状況にある生徒は大変少ない。

また、将来的な展望として、自分が大人となって幼児とかかわっていくことになるということを普段から考える機会を持っている生徒もほとんどおらず、具体的な幼児とのかかわりについての関心は低い状況であるといえる。

その一方で、男女を問わず、将来的には子どもをほしいと考えている生徒が多く、幼児や幼児とのかかわりについて必要な能力や知識を身につけるべき状況にあると思われる。さらに、幼児に対しては、「かわいい」などの前向きな思いを抱いている。保育所訪問学習についても、訪問することを楽しみにしている生徒が大半を占めている。

本題材を通して、幼児や幼児とのかかわりについての関心を高めながら、実践的・体験的な学習を行うことにより、幼児を取り巻く大人として、具体的に自分に何ができるかを考え、将来的な実践につながるような契機とすることができると思われる。

(3) 指導観

この学習を通して、育成したい力を以下の4つとした。

育成したい力

- ◇ 幼児や幼児と家族とのかかわりについて関心を持ち、学んだことを実践しようとする意欲と態度
＜関心・意欲・態度＞
- ◇ 幼児の発達や生活と家族の役割をふまえながら、幼児とのかかわり方について工夫できる力
＜工夫・創造＞
- ◇ 幼児の発達や生活と家族の役割をふまえながら、幼児と適切にかかわることができる力
＜生活の技能＞
- ◇ 幼児や幼児と家族とのかかわり方について理解できる力
＜知識・理解＞

本題材の目標は、遊び道具の製作や幼児と触れ合う活動などの実践的・体験的な学習活動を通して、幼児に関心を持ち、幼児の心身の発達と生活、それを支える家族の役割や遊びの意義について理解し、幼児とのかかわり方を工夫できるようにすることである。

身近な生活の中で、幼児と触れ合う機会や場面に乏しいという生徒の実態から、視聴覚教材を用いての幼児についての学習や幼児のための遊び道具の製作、保育所訪問学習での幼児の観察及び幼児との触れ合い体験などの実践的・体験的な学習を通して、幼児に関心をもたせるとともに、幼児の発達と生活や遊びについての理解を深めさせ、幼児とのかかわりについて考えさせる機会にしたいと考える。

また、保育所訪問学習を通して、大人としての立場で幼児とのかかわる体験をするだけでなく、育児経験のあるゲストティーチャーの話聞く機会を設けることによって、幼児を取り巻く大人としての立場を意識させ、幼児とのかかわりにおいて、自分にできることは何かという具体的な工夫を考えさせる機会を設けたい。さらには、自分自身で考えた工夫を積極的に実践していこうとする意欲を高めさせたい。

さらに、幼児の発達や生活と家族の役割について考えさせることにより、幼児期を中心に自分自身の成長を支えてくれた家族や周囲の人々への感謝の思いを喚起させる契機とし、かけがえのない自分という存在を改めて認識することのできるようにしたいとも考える。

幼児や幼児と家族とのかかわりについて関心を高めることをきっかけとして、子どもが育つ背景となる家族や家庭生活についてより深く考えさせ、自分の将来の生活を展望するとともに、自分なりの課題を持って、主体的に幼児や家族とのかかわり、よりよい家庭生活を目指して実践していこうとする態度も育てたい。

(4) 研究主題との関連

宮城県技術・家庭科の研究主題「よりよい生活のための実践力を育てる指導の工夫」
～気づく、考える、築く学習を通して～

宮城県の研究主題を「よりよい生活のための実践力を育てる指導法の工夫」と設定して2年目の研究をむかえた。この研究主題にせまるために、副主題を「～気づく、考える、築く～」とし、2年目の今年、具体的に授業の流れの中で、「気づく、考える、築く」の場面を設定し、効果的に実践力を育てる授業を構築することを目標にして研究を進めてきた。

本題材では、幼児を取り巻く大人としての立場からの課題を発見し、その解決を目指して、幼児の生活や幼児と家族とのかかわりについての基礎的・基本的な知識や技術を活用しながら自分なりに工夫を試み、現在及び将来の生活の中で実践していくことのできる具体的な力を身に付けさせたい。

4 題材の指導計画

題材 「幼児の生活と家族」

小 題 材	時 数	時 間	指 導 内 容	指 導 項 目 新指導学習指導料
1 幼児の体の発達について	1	1	□幼児の体の発達の特徴について理解させる。	A (3)ア
2 幼児のこころの発達について	1	1	□幼児の心の発達の特徴について理解させる。	A (3)ア
3 幼児の生活習慣の身につけ方について	1	1	□幼児の生活習慣の身につけ方と特徴を理解させる。	A (3)ア
4 幼児の遊びについて	1	1	□幼児の遊びについて考えさせ、遊びの意義について理解させる。	A (3)イ
5 おもちゃについて	2	1	□おもちゃの役割や選び方について理解させる。	A (3)イ
		1	□幼児のための簡単な遊び道具の製作を行わせる。	
6 保育所訪問	2	2	□幼児の観察や触れ合いを通して、幼児の実態を理解させ、かかわり方について考えさせる。	A (3)イウ
7 保育所訪問を振り返る	1	1	□保育所訪問で気付いたことをまとめさせる。	A (3)ウ
<u>8 子どもと家族とのかかわりを考えよう〈本時〉</u>	1	1	<u>□幼児や幼児とのかかわりについて考えさせる。</u> <u>□幼児と家族とのかかわりについて、自分なりに工夫させる。</u>	A (3)ウ
9 絵本作り	2	2	□幼児のための絵本の製作を行わせる。	A (3)エ
10 おやつ作り	1	1	□幼児のためのおやつ作りを行わせる。	A (3)エ

5 題材の評価規準

題材 「幼児の生活と家族」

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
幼児の発達や生活の特徴、幼児と家族とのかかわりについて関心をもち、進んで幼児とかわろうとしている。	幼児とのかかわりについての課題を見つけ、その解決を目指して工夫している。	幼児の発達や生活の特徴をふまえながら、幼児とかわることができる。	幼児の発達や生活の特徴、幼児と家族とのかかわりについての基礎的な知識を身に付けている。

6 題材の指導内容と評価の計画 *別紙

7 本時の指導計画

(1) 本時の題材 「子どもと家族とのかかわりを考えよう」

(2) 本時の指導目標

- ① 幼児や幼児と家族とのかかわりについて関心を高める。(生活や技術についての関心・意欲・態度)
- ② 幼児と家族とのかかわりについて、自分なりに工夫をしたり、新たな方法を考えたりする。
(生活を工夫し創造する能力)

(3) 本時の指導の工夫

① ゲストティーチャーの活用

育児休業を取得したゲストティーチャーから話を聞くことを通して、幼児や幼児とのかかわりについての関心を高め、積極的に幼児とかかわっていきこうとする意欲を喚起するとともに、幼児と家族とのかかわりについて新たに気づく体験をさせ、自分にできる具体的なかかわりの工夫を考えさせたい。

② グループにおける話合いの活用

幼児と家族とのかかわりについて気づいたことをグループで話し合うことを通して、各自が気づいたことを共有し合い、考えを広げる機会としたい。また、広げることのできた各自の考えを、かかわりについて自分なりに工夫したり、新たな方法を考えたりすることにつなげたい。

(4) 本時の具体の評価規準

① 幼児や幼児と家族とのかかわりについて関心を高めている。(関心・意欲・態度)

Aとする状況

・ゲストティーチャーの話をもとに、幼児や幼児とのかかわりについて進んで考え、意欲的に話合いに参加し、積極的に意見を述べている。

Cの状況の生徒への手だて

・グループのメンバーの意見を参考にしながら考え、意見を述べるように助言する。

*評価方法 □話合いの観察 □発表 □学習シート

② 幼児と家族とのかかわりについて、自分なりに工夫をしたり、新たな方法を考えたりしている。

(工夫・創造)

Aとする状況

・ゲストティーチャーの話から気付いたことをもとに、幼児とのかかわりについて自分なりに工夫をしたり、新たな方法を考えたりすることができる。

Cの状況の生徒への手だて

・具体的に実践できそうなことをいくつか参考として助言する。

*評価方法 □学習シート